



令和4年9月12日

研究主題 「学ぶこと・考えることを楽しむ」

～自分の考えをもち広げ深める力の育成：「考えの形成」を促す指導法の工夫～

9月12日、本校初めての英語科での校内研究が行われた。5年1組において「Unit4 He can bake bread well.」の授業を行った。



本時の目標は、「クラスメイトの出来ること/出来ないことを考え、言語材料を用いて分かりやすく伝え合う。」であった。内容としては can/can't を用いて人物を説明する展開を計画していた。まず、人物ヒントクイズを行った。担任の松川教諭について、can/can't を用いて説明しそれを当てるクイズを行った。その後、自分たちが取材した友だちについて、分か



りやすく伝えるために、can/can't を用いて文を作っていた。

友だちのヒントクイズを考えノートに書いた。塩原教諭、アンディは丁寧に子ども達への声かけをしつつ、じっくりと時間をかけて作業する活動を行った。子ども達は、教諭からヒントをもらったり、辞書で調べたり、試行錯誤しながら文を考えていった。

協議会では、研究主題においてねらいとしていた、対話の必要性を感じさせるということの良さについて意見が出た。また学習活動の中で見えてきた課題に対しても、提案があった。学習進度の異なる子どもに応じた手立てなどがより明らかになると、さらに授業が効果的に展開されていくのであろうという意見が合った。

講師としてお招きした文教大学の金森先生からは、TT であることの利点を生かすことや、ステップバイステップで段階的に学習を進めていくこと、イラストなどの視覚を利用しながら、文章構造を定着させることを教えて頂いた。さらには、STEAMS 教育のように、教科で縦割りに分ける学習でなく、横断的に学ぶことの重要性も教えてくださった。その中では、知識やスキルだけでなく、感じる力や考える力を育てることが大切であるということも、改めて気付かせていただいた。

一般的に抱かれている英語教育への幻想も、打ち砕かれたのは大変衝撃でもあった。授業が一見リズムよくテンポ良く進んでいて見た目としてはどんどん身につけていくような授業でも、内容や情報をしっかりと処理する時間が必要で、それがなければ定着しないということも気付かせていただいたのは、今回のご講演の中でも大きな収穫であった。